

The 2 Chome Times 2026年 7月号

NO1のプレミアムストリートをめざして



NO338号.

2026年・7月・25日

発行 神戸三宮センター街2丁目商店街振興組合 (tel331-3091) (fax333-8591)

2丁目タイムス 7月号

編集：企画・商業振興部、編集長：井上品雄 <https://www.centergai2.com> E-mail:centergai2@nifty.com



フェイスブックでも発信しています <https://www.facebook.com/centergai2/>



2丁目で KOBE Free Wi-Fi ご利用いただけます

★令和8年 沖縄全戦没者追悼式・石垣全戦没者追悼式

太平洋戦争が終結して今年で81年目になります。6月23日（火）午前11時50分、沖縄県糸満市



摩文仁の平和祈念公園で沖縄全戦没者追悼式が行われ、久利会長と街創り協議会のメンバー4人で参列致しました。厳しい暑さが続く中、玉城沖縄県知事の平和宣言、高市総理をはじめ両院議員長の挨拶へと進み、豊崎中学校2年生の亀谷琉奈さんの平和メッセージ「生きたいと願った証」が朗読されました。追悼式終了後、引き続き神戸市出身で最後の官選知事であった島田勲氏の慰霊の碑がある「島守の塔」へ

向かい、慰霊祭に参列し黙祷を捧げました。その後すぐに石垣市全戦没者追悼式並びに平和祈念式へ参列するため、那覇空港へと急ぎました。石垣市職員の方々のご協力により遅れることなく参列でき、いしがき少年少女合唱団による「月桃」「別れの曲」が合唱される中、八重岳諸島でマラリア有病地域に避難を強いられ犠牲となった住民を追悼し、献花を行いました。前日には、沖縄戦にて佐久市出身の軍医である小池勇助少佐が率いた、第24師団第二野戦病院の跡地である「糸洲の壕」内部の見学。同壕入口にある鎮魂の碑への供花をはじめ、北海道のアイヌの人々を含め、南の沖縄から北の北海道までの犠牲者が納められた「南北之塔」、高知県出身者の戦没者を追悼するための「土佐之塔」、さらに「韓国人慰霊塔」、宮崎県出身の戦没者を慰霊するための「ひむかいの塔」へそれぞれ供花をし、鎮魂の祈りを捧げました。KOBE 夢・未来号・沖縄プロジェクトで沖縄へ行く神戸の子どもさん達には、沖縄で体験する自然や文化の素晴らしさだけではなく、戦争の悲惨さと平和の尊さについて学んで頂きたいと思いました。



★兵庫陶芸美術館 須恵器展

丹波焼の故郷、兵庫陶芸美術館で開催されていた「須恵器」展に行ってきました。

一万年を超える長い焼き物の歴史がある日本で、「須恵器」は1600年ほど前に朝鮮半島から伝わった、窖窯(あながま)と呼ばれる窯を用いた高度な焼成技術によるもので、日本の陶芸文化の形成に重要な役



割を果たしてきました。各地から集められた圧倒的な数量の作品が伝来初期のものから後のものまでバランス良く展示されており、時代の移り変わりとともに技の工夫、技術の進歩がよく分かりました。館を辞した後、2丁目のストリートミュージアムに作品を収蔵されています市野雅彦さんのアトリエに挨拶に伺いました。日々、超ご多忙な市野雅彦さんは作品制作中でしたが、久利会長が来られたということで、手を止めて、思い出話や近況報告を楽しそうに感慨深く話されておられました。昼食を頂いた猪肉専門店「おおみや」の谷口料理長はとても物腰の柔らかい方で、料

理の説明をご丁寧にされ、しかも長年にわたり神戸のポートピアホテルで料理の修行をされていたそうで、三宮センター街2丁目もよく歩かれておられたとの事です。久利理事長が街創り協議会の活動やプロジェクト、「今日はストリートミュージアムの視察研修で陶芸美術館に行って参りました」と説明されると、とても興味深く真剣な眼差しで聞いておられて、久利会長の想いに賛同され、またとても感心されて聞いておられ、「何度も出会いに感謝」と言っておられました。商売人は商売だけでなく、色々な角度から様々な広い範囲での知識、良識をもって日々勉強することが大切であると、改めて実感した一日でした。

★神戸百華—コレクションが開く神戸の魅力 神戸市立博物館

神戸と言えば2017年に開港150周年を迎え、現代に至るまで、近代的なイメージが強いですが、古く



は源平合戦の一つの舞台となった一の谷など、多くの史実・伝承も息づいています。神戸市立博物館では6月14日迄「神戸百華」と題して展覧会が開かれ、神戸市立博物館が誇る100件のコレクションを多様な視点より紹介していました。たびたびご紹介しておりますように2丁目の西側入り口にありますステンドガラスは川西 英

先生の作品「みなと俯瞰」(昭和11年製作)ですが、これも第1章{神戸と海と...}で展示されていました。この作品は「神戸百景」70点目の作品で、その説明には「お空に船が浮かんでいる...」とタイトルが朱色で描かれており、「神戸、ええやろ、と川西先生の優しい声が聞こえてきそう」と結ばれていました。神戸の様々な景色を優しいまなざしで描かれた川西先生のお人柄がしのばれますね。その他にも入ってまず目につくのが江戸時代末期に幕府が設置した「神戸海軍操練所破風」でした。海軍操練所と言えば勝海舟や坂本竜馬も頭に浮かんできます。「破風ハフ」とは切妻屋根につく装飾のことで、この歴史的遺構が目の前に現存するのは感慨深いものです。その他にも平清盛が福原を新しい都にするつもりでしたが、平家の人々の夢見が悪くなって、ある朝、清盛が寝所で目を覚まし、妻戸を開くと、庭には無数のシャレコウベが蠢いていたという様子を描写した「福原殿舎怪異之図」は印象に残りました。この逸話が切っ掛けかどうかは定かではないですが、わずか半年で清盛は京に戻ることにしたそうです。こういった大変興味深い作品・資料を神戸市立博物館は多く所蔵していますので、今回はこの「神戸百華」を見逃された方も、次の機会があれば是非ご覧になって下さい。



★編集後記

今回、神戸市立博物館を訪ねて、真っ先に感じたのは「神戸にも様々なストーリーがあるな」というものでした。京都や奈良には深い歴史があり、神戸はと言えば「モダン・お洒落・神戸ビーフ」といった様に現代的なイメージが頭に張り付いていたからです。特に写真の「神戸海軍操練所破風」は勝海舟・坂本龍馬といった大物の歴史的人物も関連しています。実は新港町・京町線沿いの阪神高速道路 管理本部 神戸管理・保全部の西隣の旧国有地では、遺構発掘調査が行われ、海軍操練所跡地の一部が敷地内から見つかり、歴史的な価値のある土地である事が判明していました。土地を保有する神戸市は、ここに歴史ミュージアムの開設を構想していましたが、この概要が固まり、発表に至りました。2027年春に海軍操練所遺構の展示施設がオープンされる予定です。ただこの土地は約2000平方メートルあるのだそうで、2032年以降に始まる本開発工事が進められる迄の暫定的な運用だそうです。しかしながら、本格的な開発が始まっても、この展示施設は形を変えて新たに設営されるそうで、観光客増加への呼び水の一つになれば良いですね。



美しい街 共に歩む

ビルメンテナンスつるかめ管財株式会社 078-371-3589